

特集

社会活動を
地域のしごととして続けるには…

社会的課題を解決するために、協同組合だけでなくNPOや信用金庫など、多くの非営利団体がコミュニティに関わる社会活動に取り組んでいる。新しいタイプの取組みが登場すれば、先進事例としてメディアや研究雑誌に取り上げられるが、そのような非営利活動の中で継続的な活動に焦点を当てているものはあまり見られないように思われる。しかしながら、非営利な活動を継続することは、財政面や人材面など、多くの課題に向き合い、それらを乗り越えながら進めていくことが求められる。今回は、非営利な活動を継続するためのヒントを少しでも提示できればと考え、以下の三事例を取り上げることとした。

一つ目は、英国で30年以上、地域の雇用創出などをサポートしながら地域経済開発に取り組むSustainable Enterprise Strategiesという中間支援団体の活動についてである。利益には繋がらない地域の社会活動でありながら、地域の雇用を確保しながら長年続けてきたノウハウを提示いただき、日本で展開される活動への手がかりとなることを期待したい。

二つ目と三つ目は、資金調達に関連する団体を紹介する。非営利な活動を継続する上で、資金調達が大きな課題となることが多いと考えられるためである。一般的な金融機関では、リターンの見込めない活動に対して積極的に投資する金融機関がまだまだ少ないのが現状であるだろう。このような課題に取り組みながら地域活動を支援している、東海地方のNP Oバンク「コミュニティ・ユース・バンクmomo」と近畿ろうきんの共生事業について報告いただいた。社会的企業やコミュニティビジネスを展開する際の資金面での課題とその解決策について、協同組合が学べる内容も多々含まれているのではないだろうか。地域への貢献が求められる協同組合の取り組みにも参考にしていただけることを期待したい。（紗）

1. スモール・ビジネスを持続的に発展させるために
～英国の社会的企業SES（熊倉 ゆりえ・中島 亮子）
2. お金の地産地消を目指して ～“志金”を通じた地域の課題解決（下門 直人）
3. 協同セクターが担う地域再生の可能性を考える
～近畿ろうきんの共生事業を事例として（法橋 聡）